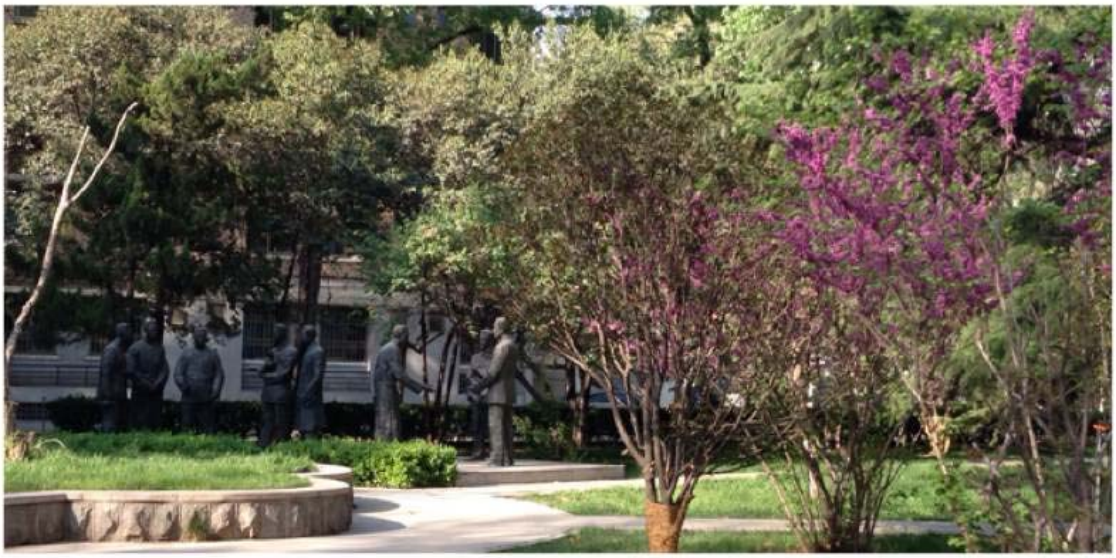
山東大学交換派遣留学生　松倉佳穂さん（法学部経営法学科 4 年）

2014 年 4 月 1 日

3 月下旬より徐々に春の兆しを感じるようになり、4 月に入ってからは陽気な日々が続いております。学内は半袖半ズボンの人が大半です。

下の写真は春を迎えた中心校区（中心キャンパス）内で撮ったものです。



そして、現在私が受けている法学部の授業は中心校区（中心キャンパス）より少し離れたところにある洪家楼校区（洪家楼キャンパス）にてあります。

キャンパスについて少し説明させていただくと山東大学には 8 つのキャンパスがあり、その内の 6 つが済南に点在し、残りの 2 つが威海と青岛にあります。なお、青岛のキャンパスは現在まだ建設中です。

中心キャンパスは比較的最近できたキャンパスであるため別称新校と呼ばれているのに対して、洪家楼キャンパスは一番古いキャンパスであり、別称老校とも呼ばれています。

下の写真が洪家楼キャンパスにて撮った写真です。このキャンパスは洪楼大教堂（教会）がシンボルですが、普段は一般の人は入れないとのことです。

また、私が受けている授業の中に国際経済法が含まれているのですが、興味がわく科目の一つと言えます。貿易専門用語や国際売買、国際投資に関する基本原則と法律問題等について事例を使いながら先生が解説してくださいます。

この授業で資本輸入国、資本輸出国に関する国際投資問題や国際投資と国内投資の相違点について聞いた時に思い起こしたことは、あくまで中国側の立場で取引事例を考えるということです。

今まで国内＝日本で物事を考えていたので、当初、授業中に国内投資という単語が出てきた際

もついつい日本国内の投資を連想してしまう自分がいました。
　前期は中国語のレベルアップに必死だったので、売買や投資問題といった物事を中国側から考えてみるという余裕がありませんでしたが、後期は中国側から見たいろいろな観点を吸収することができそうです。

　何事に対してもそうだとは思いますが、語学を学ぶ上でも余裕を持って臨むことが大切だと気づきました。